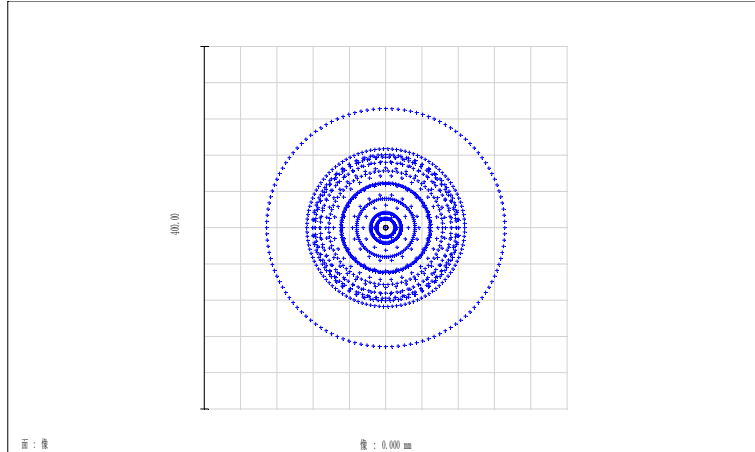
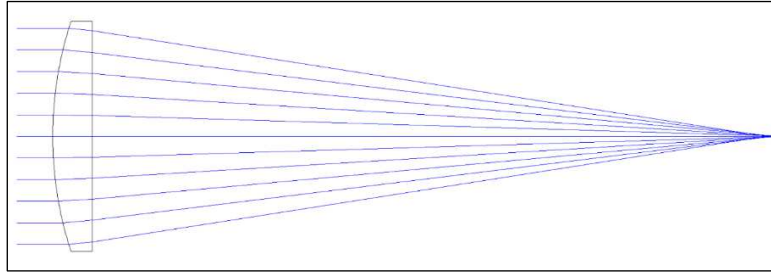


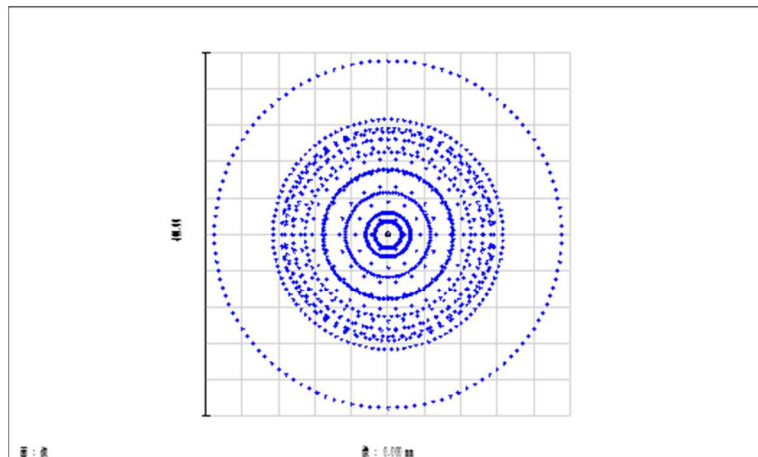
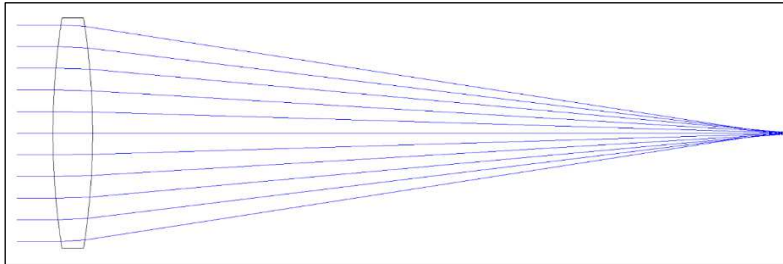
# スポットダイアグラム

<平凸レンズ>



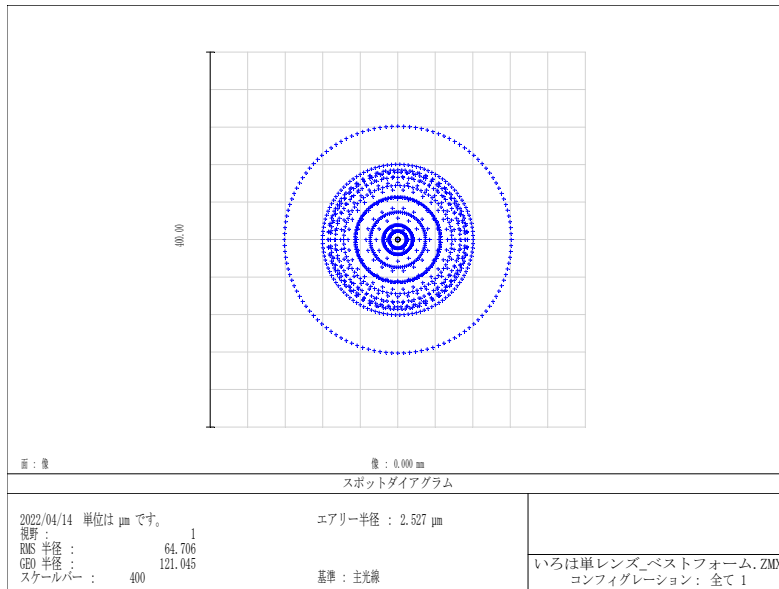
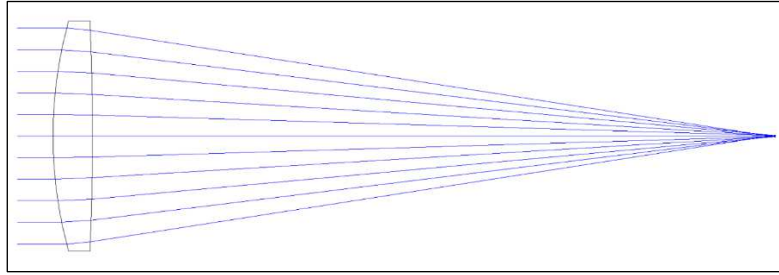
面: 像		像: 0.000 mm
スポットダイアグラム		
2022/04/14 単位は $\mu\text{m}$ です。	エアリー半径: 2.509 $\mu\text{m}$	いろは単レンズ2_ZMX コンフィグレーション: 全て 1
視野: 1		
RMS 半径: 70.176	基準: 主光線	
CEO 半径: 131.388		
スケールバー: 400		

<両凸レンズ>

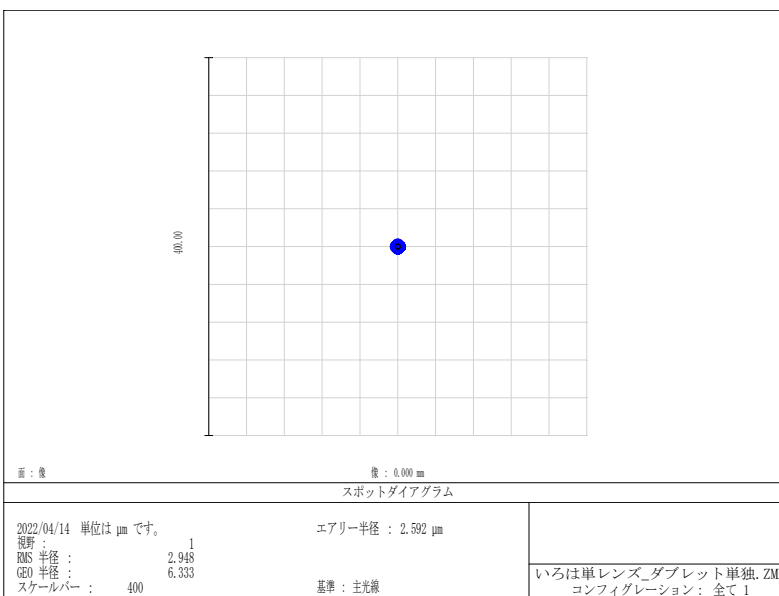
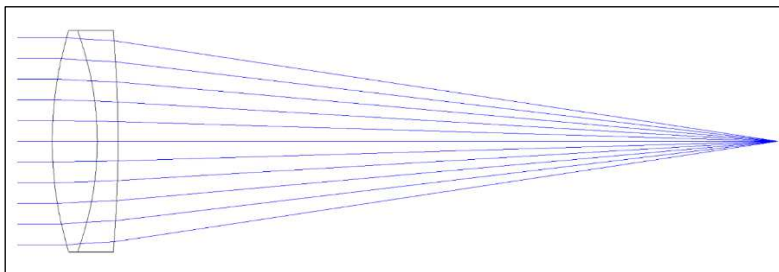


面: 像		像: 0.000 mm
スポットダイアグラム		
2022/04/14 単位は $\mu\text{m}$ です。	エアリー半径: 2.526 $\mu\text{m}$	いろは単レンズ_両凸_210 コンフィグレーション: 全て 1
視野: 1		
RMS 半径: 101.720	基準: 主光線	
CEO 半径: 192.572		
スケールバー: 400		

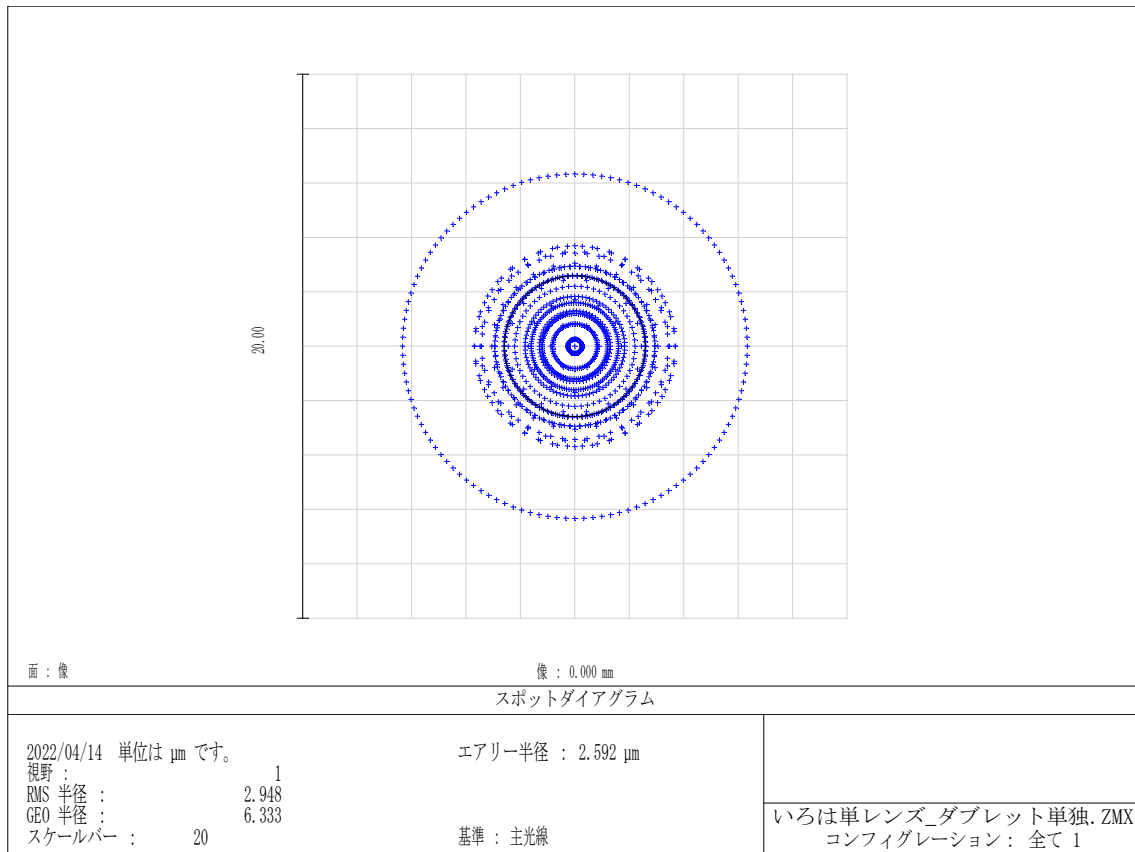
<ベストフォームレンズ (=単レンズにおいて光軸上の像点で最良なレンズ形状) >



<ダブルットレンズ>



以上のスポットダイアグラムは、尺度（最大スケール=400 $\mu$ m）を統一したもので、当然ですが光線の散らばり具合の小さい方が性能（収差）が良いレンズです。単レンズでは、ベストフォームレンズや平凸レンズがいいことが分かります。これに対して、ダブルレットレンズは断トツの性能を持っていることが分かります。ダブルレットレンズについては、表示の尺度（最大スケール）をもっと拡大したのが、次に示すものです。表示の尺度（最大スケール）は、これまでの「400 $\mu$ m」から「20 $\mu$ m」と1/20になっています。



このように、光学設計ソフトはミクロンオーダーまでの非常に正確な光線追跡を行い、より良い性能のレンズ（光学系）が設計できるツールになっています。